



瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

年間第 6 主日 B 年 (2024 年 2 月 11 日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：創世記 3 章 16 — 19 節

第二朗読：コリントの信徒への手紙一 1 章 31 — 11 章 1 節

福音朗読：マルコによる福音書 1 章 40 — 45 節

その人に触れ

三つの朗読から

第一朗読に、「男を求め、彼はお前を支配する」(16 節) とあります。もともと、男と女の関係は平等、イコールでした。互いによく分かり、互いにわかちあっていました。しかし、罪の結果、この関係は破綻してしまいます。支配と従属の関係です。

罪の結果、土地は呪われてしまいます。労働も苦しみに変わってしまいます。罪は人と人との関係、人と他の被造物との関係、そして人と神との関係を破綻させてしまうのです。

第二朗読の「わたしがキリストに倣う者であるように」(1 節)。パウロはキリストとの関わり、関係を生きます。それは「倣う者」という生き方です。「主イエス・キリストがそうであったように、わたしもまた…」これが、パウロの生きる基準であり、こうして、キリストのように神の栄光を現す者となっていきます。

福音の「清くなれ」(41 節) は短いですが、力ある言葉です。イエスさまの言葉は、単にいやしの言葉ではありません。その人が神との関係を回復していくための言葉です。そのためにイエスさまはあえてその人に触れて、まず関係を回復していきます。

説教：「その人に触れ」

今日の福音朗読は、宣教に出かけようとカファルナウムの町を発ったイエスさまのもとに重い皮膚病の人がやって来る物語です。

40 – 42 節は重い皮膚病をいやすイエスさま、43 – 44 節は沈黙^{ちんもく}を求めるイエスさま、45 節は人々の熱狂^{ねつきよう}を避け、人のいないところに避けるイエスさま、と全体を三つの段落で分けることができるでしょう。

また、40 節の前半はイエスさまと重い皮膚病^{わづら}を患っている人との出会い、後半はその人からの懇願^{こんがん}。41 節はいやしの実行と言葉、42 – 44 節はいやしの効果の確認といった内容となります。

「重い皮膚病」(40 節)は、ギリシア語ではレプラと言います。ヘブライ語聖書のツァーラアト^{ゆらい}に由来します。現代の医学で言うところのハンセン病だけではなく、治療が困難な皮膚病^{こんなん}を意味します。重い皮膚病(レプラ)を患う者はレプロスと呼ばれました。レプロスは律法^{りっぽう}では不浄^{ふじよう}の者と見なされ、イスラエルの共同体に住むことがゆるされませんでした。もし誰かが近づいて来たら、「わたしは汚れた者^{けが}です。汚れた者^{けいこく}です」と言って、警告^{みづか}を自ら発しなければなりません(レビ 13 章 45 節)。

ですから、この重い皮膚病を患っている人が自分からイエスさまのもとに来るのは律法に反する行為^{こうい}だったのです。

41 節の「深く憐れ^{ふか あわ}んで」はイエスさまのこころを表す言葉です。原文はスプラクニスティスですが、はらわたを表す「スプラクノン」から来る言葉です。ニュアンスとして相手の苦しみに共感^{きようかん}して、自らのはらわたも痛くなるような状態^きを指します。そして同じ節でイエスさまは、「手を差し伸べてその人に触れ^ふ」ます。これは、イエスさまがいやしを行うときに見られる表現です。今度は、イエスさま自身が律法に反することをします。重い皮膚病を患った人は汚れているから、その人に触れた人も汚れることになるからです。

44 節にある「行って祭司に……」というイエスさまの言葉に注目してください。『レビ記』14 章 2 節以下に重い皮膚病の人が祭司のもとで病気が治^{なお}ったことを証明^{きてい}してもらい規定^{しる}が記されています。病気が治ったかどうかは祭司の判断^{はんだん}次第^{しだい}でした。そして、祭司によって認められて、その人はイスラエルの共同体^{もど}へと戻っていくことができました。人々との関わりを結び直すことができたのです。しかし、この人は祭司のところに行かなかったのかもしれませんが。なぜなら、「人々に告げ^つ」(45 節)知らせ始めたからです。イエスさまが身体^{からだ}に手を触れてくれたおかげで神さまとの関係を結び直した人にとって、もはや祭司のところに行く必要はなかったのでしょう。

「人々に告げ」はギリシア語でケーリュセインですが、福音を告げ知らせるときによく使われる単語(1 章 14、38、39 節、3 章 14 節、6 章 12 節、13 章 10 節、14 章 9 節)です。先週の福音の 1 章 33 節では、町の中の人々が、戸口に集まってきました。それと対^{たい}比^ひするかのよう、こんどは町の外でも、人々はイエスのもとにやってくるようになりました。